科目ナンバリング	U-LAS55 10002 SB31						
授業科目名 <英訳>	海外実地セミナー :東南アジアの再生可能エネルギー開発 Overseas Field Seminars :Development of Renewable Energy in ASEAN			担当者所属 職名・氏名	エネルギー科学研究科 准教授 尾形 清一 エネルギー理工学研究所 教授 大垣 英明		
群	キャリア形成科目群	分野(分類)	多文化理解			使用言語	日本語及び英語
旧群		単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・ 前期集中	曜時限	集中	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

東南アジア（タイ）のチェンマイ大学他を訪問し、再生可能エネルギーの基礎と導入時の問題点および将来展望について、現地大学の学生と共に学ぶ。

[到達目標]

再生可能エネルギーの特徴を踏まえ、地域に適合した技術導入についての課題を理解する。そして、SDGsやカーボンニュートラル実現に向けた技術・社会経済・事業モデルの在り方学ぶ。また、このセミナーで学んだ知識を基に、タイ（チェンマイ県）・日本（京都府）の地域におけるカーボンニュートラル実現に向けた具体的な事業モデルを検討し、政策提案につなげる。

[授業計画と内容]

出発日前事前授業間（受講生の都合のつく時間帯に3コマ程度を実施）

8月もしくは9月に実施する。以下は、現地（タイ・チェンマイ）での現地調査・講義のスケジュールである。

第1日　日本朝出発―バンコク経由、現地到着
第2日　午前　オリエンテーション、午後、講義（タイと日本のエネルギー利用の特徴）
第3日　講義（地域開発と再生可能エネルギー）
第4日　近郊の再エネ施設　Chiang Mai World Green City①
第5日　近郊の再エネ施設　Chiang Mai World Green City②
第6日　講義　Bio-Circular-Green（BCG）経済モデルについて
第7日　講義　バイオマス・太陽エネルギー利用、実習
第8日　グループ討論　（再生可能エネルギー・カーボンニュートラル実現に向けたビジネスモデル・政策モデルの検討）、発表準備
第9日　　発表会、閉会式、午後チェンマイ出発、バンコク経由、翌日関西空港到着

日程は都合により変更される場合がある。

帰国後に、地域におけるカーボンニュートラル実現に向けた具体的な事業モデルを検討し、レポートとして提出すること。

海外実地セミナー :東南アジアの再生可能エネルギー開発(2)へ続く↓↓↓

海外実地セミナー :東南アジアの再生可能エネルギー開発(2)

[履修要件]

安全講習の受講、学研災付帯海外留学保険への加入。事前学習として「ILASセミナー ：再生可能エネルギー政策の調査と計画」を受講することが望ましいが、必須ではない。

[成績評価の方法・観点]

現地での学習状況(50%)、現地での発表会報告内容もしくは帰国後提出するレポート(50%)に基づき採点する

[教科書]

前期の採点報告日以降に実施するため、成績報告が前期に間に合わない可能性がある

旅費は自己負担となる。費用の目安は、航空運賃・滞在費などを含めて15万円程度（2019年実績）である。

※本科目は、新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、不開講となる可能性がある

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前授業を含め、すべての行事に参加すること。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]